

# 校内現職教育

## 1 学校教育目標

確かな学力をもち、心豊かで たくましい子どもの育成

## 2 本年度の重点

- ・開かれた学校づくり
- ・生きて働く確かな学力の育成
- ・豊かな人間性や社会性の育成
- ・心身の健康づくりと実践力の育成
- ・教職員の資質の向上

## 3 研究主題

### 豊かにかかわり，確かな学力を育む学習の創造

- 学びを生かす力を育成する指導法の工夫 -

#### (1) 主題設定の理由

児童の実態と学校教育目標から

本校の児童は、素直で明るく、与えられた課題に対しては真面目に取り組もうとする反面、自分から主体的にかかわろうとすることはあまり見られなかった。昨年度までの研究の取り組みで、問題解決学習の筋道や友だちとの交流の仕方を体験することで、進んで学習に取り組もうとする態度が向上してきているものの、一人一人が学習材や人に進んでかかわり、主体的に学習に取り組もうとする態度は十分とは言えない。また、授業を通して学んだことを生活に活用しようとする姿もあまり見られない。それに、基礎的・基本的な学力が十分定着しきれていない児童も少なくない。

このようなことをふまえ、本校の児童の課題として次のことが挙げられる。

進んで学習材にかかわろうとする意欲を引き出すこと。

自分の考えを表現し、進んで人とかかわろうとする態度を伸ばすこと。

基礎的・基本的な知識や技能を習得させること。

互いの違いを認め合い、自他のよさに気づく態度を伸ばしていくこと。

めあてに向かって努力したり協力したりする態度を伸ばしていくこと。

本校の学校教育目標「確かな学力をもち、心豊かで たくましい子どもの育成」には、生きて働く確かな学力を身につけ、社会や自然、さらには他者や自分に主体的にかかわりながら、生きる力を伸ばしていく子どもの姿が掲げられている。生きて働く知識・技能と、対象に主体的にかかわろうとする力は、これからの社会を築き支える子ども達の「生きる力」となるものとする。

新学習指導要領から

新学習指導要領においても、「生きる力」を育むことは現行のものと変わらない。「生きる力」を育むという理念を実現するためのポイントは以下の通りである。

基礎的・基本的な知識・技能の習得

体験的な理解や繰り返し学習を重視する。

思考力・判断力・表現力等の育成

観察・実験，レポート作成，論述など知識・技能を活用する学習活動を充実する。

学習意欲の向上や学習習慣の確立

分かる喜びを実感させる。

豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

言語能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然、環境とかかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる。

このように、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用する活動の充実、学習意欲の向上、対象へかかわる活動の充実は、新学習指導要領改訂のポイントにも挙げられているように、今日の教育課題と言える。

研究の経過から

昨年度まで「主体的に考え、ともに学び高め合う子どもの育成」をテーマに研究を進めてきた。その中で、次のことが明らかになってきた。

課題を自分で作りそれを解決していく問題解決学習の重要性

子どもの意識の連続性を図った単元指導計画の重要性

学びの蓄積や表現力の育成を図るためのノート指導の重要性

しかし、学習に対する意欲を示す子どもや、他者や周りの生活に進んでかかわり働きかけようとする子どもが育っているとは言えない。また、基礎的・基本的な学力が十分身につけているとは言い難い。

それは、子どもにとって意欲をわかす学習材が提示できていないこと、自分の考えをしっかりとつたための知識や学び方を習得していないため自分の考えが持てずにいること、形式的には交流していても自分から進んで交流したいとはあまり思っていないこと、学んだことを生活に生かそうとはしないことが課題として挙げられる。

そこで、他者や社会、自然、環境と豊かにかかわり、確かな学力を育てていくことは、主体的に考え、ともに学び高め合う子どものさらなる育成につながるものとする。

(2) 主題について

「豊かにかかわる」とは

人や社会，自然，環境に関心を持ち，そこから学び，主体的によりよく働きかけようとする  
こと

「確かな学力」とは

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，それらを生かしながら考え，表現し，よりよく判  
断・実行できる力のこと

人や社会，自然，環境と豊かにかかわることで，確かな学力は身につくものと考え，主題を「豊  
かにかかわり，確かな学力を育む学習の創造」とした。

確かな学力の中でも，思考力，表現力の育成は重要な位置を占める。しかし，思考力，表現力  
の育成には，それを支える基礎的・基本的な知識・技能が必要となる。基礎的・基本的な知識・  
技能を習得し，それを活用しながら思考力，表現力は育まれていくものとする。ここでいう活  
用とは，実生活につなぎながら学びを役立てていくということもあるが，本時や本単元で学んだ  
力を他の単元や教科に役立てていくということも含む。このような学びの活用を通して，基礎的  
・基本的な知識・技能の定着がさらに図れるとともに，学ぶ価値を体感し，さらなる学びの意欲  
を向上させていくことができるものとする。

そこで本年度は，学びを生かしていく指導法の工夫ということを中心に研究を進めていくこと  
とする。

4 研究内容

学びを生かしていく力を育成する指導法の工夫（授業研究を通して）

5 研究方法

(1) 重点教科の設定

・ 重点教科を算数，理科，生活科，総合的な学習とし，生活とかかわりながら学び，その学  
びを生活に生かしていく力を育成するための学習材の開発や支援のあり方を探る。

(2) 思考力，表現力を育てる言語活動（ノート表現，論述など）となるための支援の工夫

・ 言語活動に必要な知識・技能を明確にする。  
・ 思考を深めるために教具や発問，板書を工夫する。

(3) 学習意欲を引き出すための支援の工夫

・ 問題意識を高めたり，自己存在感を感じるための教具や発問，板書を工夫する。  
・ 学んだことを生活とつないで活用できるような発展的な学習を開発する。